

インダストリー事業

常務執行役
インダストリー事業管掌
葛原 憲康



インダストリー事業は、当社の変革の歴史を通じて磨き続けてきた技術と、お客様の現場に寄り添う共創活動によって、業界をリードするいくつもの世界初やトップシェアの商品・サービス群を生み出してきました。

当社が提供する価値の基盤となる技術は、祖業からの変遷を経て磨き続けてきた光学・材料・微細加工などのコア技術に、AIなどを加えて複合化したものです。また、アナログーデジタルの変換プロセスを支える当社のセンシング、機能材料、IJコンポーネント、光学コンポーネントの各ビジネスユニットは、さらなるデジタル化の進展にともなって高度化する顧客ニーズに応え続けています。

当事業に共通する特長は技術力の高さにとどまらず、お客様の具体化できていない課題も提起し、技術を用いて「最も適した解決策」を提供できるところにあります。私たちが目指すのは、このように提供する「技術を活用して実現するストーリー」が、お客様にとって唯一無二の価値となることです。そして、それを支えるのが、開発・製造・顧客サポートが一体となった「現場力」です。現在、ディスプレイ産業においては、需要の回復と新たなニーズに応じて、センシング、機能材料ともに新しい技術を用いた最適な解決策の提供を進めています。同時に、注力領域の半導体製造装置向け光学コンポーネント事業では、さらに技術と現場力を結集させ、お客様に最適な解決策を提供し続けることで事業拡大を加速していきます。

インダストリー事業の強化戦略

顧客との共創を通じたマテリアリティの実現と成長

インダストリー事業では、強みであるコア技術を基盤とし、「現場力」による顧客との共創を通じて、製造業などの産業で欠かせない部材や計測・検査機器・サービスを提供し、マテリアリティとして掲げる社会価値の実現に貢献しています。具体的な取り組みとして、製造・検査工程の自動・省力化を通じた「働きがいの向上および企業活性化」、デジタル化や新材料の提供によるロス低減や、高度な計測・判別による「有限な資源の有効利用」や「気候変動への対応」などを推進しています。

2024年度の進捗

センシングユニットは、光源色計測領域における大手顧客の設備投資の遅延により、減収・減益となりました。大手顧客案件については、グローバル一体でのアカウントマネジメント強化により競争力を高めていきます。一方、自動車外観検査はパイプラインが増加したことで継続して成長しています。また、ハイパースペクトルイメージング(HSI)技術を用いた計測器ビジネスは、人間の目では識別ができないわずかな色や物質の特性の違いを捉えられる特性を活かし、リサイクルなどの検査領域への適用拡大を目指します。

機能材料ユニットは、大型TV向けの需要は継続して増加しています。一方で、機能材料フィルムへのお客様の要求が変化しつつあります。これに対しては、フィルム技術を改良して、TAC(トリアセチルセルロース)系やCOP(シクロオレフィンポリマー)系の複数の選択肢で要求に応じていく方針です。

IJコンポーネントユニットは、多種多様なインクと適合性の高いインクジェットヘッドを提供し、屋外広告向けなどのサイングラフィックス用途や商業印刷用途において需要の増加が続いています。また、成長領域と位置づけている工業分野では、ヘッドの耐久性の高さが優位性となっていることに加えて、ケミカル技術の強みも活用して市場をリードしています。

光学コンポーネントユニットは、半導体製造装置向けの事業をお客様と10年以上育ててきました。今後、さらなる設備増強により増

産対応を行うとともに、中長期的な事業拡大に向けて、従来より成長の短い領域に拡大し、この領域でも次世代技術の導入を含めた設備投資を行うことで競争力を強化していきます。

今後のインダストリー事業戦略

中長期での事業開発では、ディスプレイ、自動車外観検査などのモビリティ、半導体製造装置向け光学コンポーネントなどの半導体の3つの領域に注力します。これらの市場の変化を捉え、顧客の課題・ニーズへの迅速な対応を目指します。そのために、従来の製品別ビジネスユニットを超えて、市場・顧客目線で、バリューチェーンと技術を俯瞰できる顧客フロント人材を各注力領域に配置。これらの人材が業界をリードするブランドオーナーに密着することで需要をいち早く察知し、新規ソリューションを開発できる優位なポジションを確立していきます。これにより、技術資産やグローバルな顧客関係を活用しながら、顧客との共創を通じた新たな事業開発を推進します。

顧客との共創を通じた事業開発の成果

ディスプレイ



外部環境:
デバイス進化にともなう新表示方式の開発加速

- ICTブランドオーナーに対して事業横断のアプローチを行うことにより、非偏光板用途の高機能フィルムで、次世代中小型ディスプレイ向け案件を受注

モビリティ (自動車外観検査など)



外部環境:
CASEによる技術革新の加速

- 自動車外観検査装置をスズキ相良工場に国内初導入、スズキ他工場とともに、グローバルでのパイプライン増加により、今後の成長に期待

半導体(半導体製造装置向け光学コンポーネントなど)



外部環境:
外的要因によるサプライチェーンの大変動

- 半導体製造装置向け超精密光学系部材のビジネスで可視光領域の新機種案件獲得

インダストリー事業

センシング

強化

市場環境 (O 機会 T 脅威)

- O ディスプレイの技術革新による開発・製造プロセスの変化、多様なデバイスへの用途拡大
- O 自動車工場の品質検査における省力化のニーズ
- O 製造業における資源の有効活用や、気候変動への対応の要請
- T 顧客の設備投資サイクルによる需要減退

市場成長率(2023-2025年)

光源色(ディスプレイ)・物体色計測	+4%
自動車外観検査(モビリティ)	+15%
ハイパースペクトルイメージング(HSI)	+10~15%

注 当社推定

競争優位性

- 世界標準となる精度の高い光源色・物体色計測技術
- 顧客の要望に寄り添う商品開発力
- AIによる画像解析技術
- 自動車工場の検査工程における自動化・省力化への幅広い知見

2025年度 戦略とアクション

- ディスプレイ: グローバル一体でのキーアカウントマネジメント強化による競争力の向上と事業経営の効率化
- ディスプレイ: ICTデバイスの機能進化を捉えた光源色計測の売上回復
- 成長領域: 自動車外観検査、HSIの売上伸長

戦略的KGI・KPI(前年度比)

	2024年度実績	2025年度目標
自動車外観検査・HSI産業用途の売上高伸長率	+16%	+22%

注 為替影響を除く、目標は2025年7月時点

機能材料

強化

市場環境 (O 機会 T 脅威)

- O 多様なデバイスへの用途拡大などによるディスプレイ需要拡大
- O ディスプレイの大型化によるフィルム需要拡大
- O 次世代ディスプレイの進化による新たな機能への需要増加
- O 偏光板メーカーにおけるラインの広幅化
- T 景気後退にともなうディスプレイ市場の需要減退
- T ディスプレイ技術の変遷による既存製品市場の縮小

市場成長率(2023-2025年)

大型TV(LCD+OLED)	+4%
----------------	-----

注 当社推定

競争優位性

- 溶液型ベルト式生産による材料選択の自由度の高さと機能付与を合わせた製膜技術
- その技術を活かした「長尺・広幅・薄膜」の製品群
- 後延伸技術による大型ディスプレイ用需要の捕捉

2025年度 戦略とアクション

- 増加する大型TV領域向けフィルムの需要に対応できる生産体制の強化
- 大型ディスプレイ向けの新商品の拡販による新規領域でのポジション獲得
- 既存領域での製品開発などによる競争力向上と売上の堅持

戦略的KGI・KPI(前年度比)

	2024年度実績	2025年度目標
新樹脂大型領域の売上高伸長率(SANUQI、SAZMA)	+84%	+60%

注 為替影響を除く、目標は2025年7月時点

IJコンポーネント

強化

市場環境 (O 機会 T 脅威)

- O アナログ印刷からデジタル印刷へのシフト加速
- O 製造現場における製造プロセスの変化や省プロセス・省力化
- O 資源の有効活用や環境負荷低減への対応の要請
- T 景気後退にともなう顧客の需要減退

市場成長率(2023-2025年)

成長領域(工業用途+プリントオンデマンド用途)	+5%
-------------------------	-----

注 当社推定

競争優位性

- 高精度・高生産性・高信頼性を実現する精密加工技術
- 多種多様なインクと適合性の高いヘッドを実現するケミカル技術
- 顧客の開発現場に深く入り込んでサポートする顧客対応力

2025年度 戦略とアクション

- 成長領域: 新製品投入による市場開拓と、それらが搭載されたプリンターの上市・拡販のための技術サポートによる売上伸長
- 成長領域(工業用途): 製造や物流工程でのインクジェット用途拡大に向けた、装置メーカーとの共創提案による導入促進
- 基盤領域: サイングラフィックスを中心に、競争力向上のための製品開発による領域No.1の堅持

戦略的KGI・KPI(前年度比)

	2024年度実績	2025年度目標
成長領域の売上高伸長率	+36%	+48%

注 為替影響を除く、目標は2025年7月時点